孟子

四書

正月吉日 京 刻

二月十八日 著 了

特別
へ5
6581
4

へ5
6581
4

正月廿日

天気晴　荒風歟　午時風

東京都立中央図書館

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

〈98-19〉

此ハ膃肭ニ保たる動物にして文政の頃始て見たる事ニ有て
月並編中にも桐印の八頭の葉の編十大に混雑して際
夜待の中○生きて九年卯より連て文年ての後譲ニ
頃りしも二十卯○伊勢川崖止まる男伝卯連てゐ候
せられしは生く如く在らそ係りとて○西の方の一郷也矣
ゐるとも独り道尻の卯れ候は弥に湯桜のもの高乃生子
ころふ去ル卯待の生頃湖をもし[illegible]達まて御の披露
苻我もて二年かへ代々の伐辞湖をも女能御役之列定

此中の内に男の我候え[illegible]の時多役
来り候て生子と共れ上下して出秋○[illegible]平治と立独
れ候はゞ立寄りし酒の筆とる役家人殿所とゐを
謝りて多く乃年の陸中入りて寅て亡なりし刻平治と申し候
ろし○要文を抱きり被申候で伐辞西現れかの路附
実あし御府の別持氣の毒ながら限かりて候り候へ

賜ふ

末の年一星乃御ちてハ風の也
御披

十九日 天気よし 朝夕霜

新町三条殿精進の勤例のことし。東の中宮の行啓を
待奉る日頃一條院も右府も出仕の御神楽萬歳の儀を被仕
御無事にて大宮御所の中にも有之候へは。御所よりも御出し絶
此事に ○西山君に対面 新御年の御歳の音宜新二〇大坂
四国之三郎の様を送りありしを歴ありて西山宗因の紙

文言 四領之歌

網代の松も川も家に依時雨 [illegible]

西山

一

草深き影も見えしかれ
家も続て庵の例の葩雛
枯草の梅の樹の下にかのみ雪
山出しの年来りけん雪の上

春

年の山の夢の梅ありけんの春
老ぬれば初子の日にまで遊
鶯の聞もなしに梅ちる哉

[illegible]高寺不逢　亟白

書懷く四方の隅の秋の月

さゝぬ[illegible]蓬生の草ゝ

右

又故国の段

寶政四年壬子歳旦　大江廉旧國

[illegible]ぬよゝ年のけさの春

[illegible]四方山の雪　雪中

阿蘇嶺の新[illegible]のたゝなはる　不二

[illegible]

[illegible]

[illegible]松ゝ　旧國

朝四暮三我愚逸之

[illegible]

千貫[illegible]第[illegible]

余斡

石

いそ〻筆跡書支自由形状仍之捨得哉と云の安康の
之筆とり翻く○同毎〻趣よ〻ハ行板〻割して得る文道
権能とよ定之十刹の梅湖之体那の様ニ而動く〻割して得る
大本ゆうて動作乃極〻結局梅級なる迄麁路をゝ再机上に
四方ハ紀を書く○大東〻西支よの深處浄り用支るに
牧南西庭との様家之兼ニ重厚之生陽風趣云も至る大
高人の大智山殿へ云〻にけ奥中騎馬支あ〻安〻文と来是ても

一　遊板羅に讃雨格り毀れ隣に行きて見の机上に雨あ小條爲し
句々出鐸り

未望むゝ

高判

小保光達

先賢乃貴志を〻松の乃い
折相ふ妙也江海乃鳴り道
見足あて格折の幅なる気さり
知被もいえ〻ちもと湖の宮
同本紅ゝ北林乃中ちゝ梅の色

[illegible]

[illegible]

[illegible]

明蕪れ嬢小筆の際を取蔓
尾絡く星り葉を斎子て名所
佳しも猶あゆへり名藥
蘭実も活紙を葉の月活の
蘭葉るも境々十五唄つくせ
遊人之も能毎り揃て丹羽蓮
印乃暑も旅蘭之葉の記さ尽
蘭之葉色楊柳しかく塩乃中

一本據し名蘭之活山り之し知

右

新白子明の梅花之章所
玩身し梅乃並ちも梅々下
妻のしも有故とさる来易の中み
寒富士い妻ら相無き乃形の宜
写り染りく風わ沙の妻ら知
川西も落ん了しい見し名

右

右

3E41

須弥さも上鋼鋼さく麗經の外也文作れも小除遠

〈量斜依り新意〉〇須弥蜀月經出人下須弥さも所に麗

經に外也案月經俟賦に乃に後言銅氣に先生ゆ

みりし謂也〇本意遠月經〻人下須弥さも又麗經に外也案

去斜宿作 無子階子〈〇坂所遠〈月意御千出人下須弥

無麗經の外二案入り謂也〇右所下田中大き村出人下

須弥さも一鍬に謂也〇世さ田遠之人下須弥さも一斜

于謂也〇世際山めて之人下須弥麗經一案さ謂也

〇須さく無御之月經御千之人下須弥さも謂也〇以未尻一念

〻〈〇遠〉二御千須弥麗經須弥さも謂也〇意遠樹萬作之月

之人下須弥さも〇遠原に謂也御りにて至る風たく風

新乃外移我古樹に去也人に東京乃原に去花にそれぬ

銀作また服覚え眠し作也

過半

去め人の崖乃鐘も恋しにも

川節和東風に紅葉の陣ちし

紙加

新年梅

新年は又むかし新年乃眺めかな　川柳

右

二月朔日　勅使[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上巳土瓶まゝ入令通碌彼の沢にて射羽山○麦年瀬
得る民人の婦の紫浅那多通底にて射に羽山徳え
年時もりし小舟近くかえる日の枝浮を

旧儀分深夜にて陽風ある
一船と手そ足早乃ゟ海

りうの花て山月もかゝ紗陣う
ちゝめ行れと
たゝきさらり庭にて暮色

似船

孑梅や若梅や猶乙梅也　、

儒生

廿二

春雨や遥ひ了むかう余年　、
永日や九十の媼　百歳　、

訓せ兩毛解さ流し出板のよみ玄○相ゟ又未熟法て
海ぬけ中文兩錬出あゝちゝ音詩の人て少義をよみにく
謙ひ川

東の細ゟ水あり崖なれ袖の程

似船

大和路を多くの出細ハ出せる人の力を一つ口近きとし
まこと陸より名にし出ても遊びつゝ小さき舟の集まるの
ならひ也○井戸茶わんの出雲の国安酒吾代七郎兵衛掃出作る
北世のため入の名所出されたるを出る○相応なる附木屋
北の方羽織御料を出して館貿易の宮古也○年行事お成にて
掛割して取りて入る日○平堀川辰照院ニ至りて死去しける
諸事たよりに北浜辰巳○角屋中村のお世話にて鶴屋播磨掛銀貫
此家にて揚げ唄大勢集まりて動かし様にて宮本坂迄

名古屋の夫人鶴より南膳房の別家木○西宮中佐々木氏の
入来して○平兵衛と云う入来にて○本屋にて草子ゟ
迄ゆく〳〵

戸々崩にゆる中四畳
お庭の松にしたひ来るハ光乱し
花もまた出てみ見ゆる年の暮

廬眺子

両頭の條ハ先にも化けた例の火桶を抱えて名所を寝て
かくぬ

二日　天気晴　東南大風起り打上大風吹募る

此朝静かならず起りし此日大家出台鳴世一に大和を遣

東海楽三三郎く寄りを丸徐多孫く之東明心由行ぬ

大町の北岡を海三の横際しくかの火を私取りもし一挽

をうりりく

第平塚浪人男子並

此節い戸々酒をうしり

高乃秘蔵一条に豆腐を切り

三布宗用行しけり雨ガエ

出ひ出り珠文燕情を

浦くちま雨く了むもおえ吹くぬ小　汝水

又

千両四三浴び尾もらしぬ川雨堤下

右

新々郎泡し解くりに流紡ぬ行くちやの秋条

此生雨の緑掲雲をしく沢静く地の韓生毛詩人と語る也

新りく四度の到汁出勤まする御子細は出世古例申す存念
四の定を経まよりまりにれと夏の暑れ候て参りて浅生の
海子出ぬ
東行北や秋けりける山湖の音　似水
東乃行しり川雲錦まや湖か浮
小船染く雪降ましく泡え歩く立りめの錦舟る人歌詞
ころ都八之海と南なるぬ色船み屋子携りまりし流謡
南前しるろめ知とえてるさつ聆く陣中のの○経堂

花まくとその○蔦の作ら船鉢まる定又ら師ゆく季山
ざれなし於蕗乍人物かろく性りく出振船出乃蔦風な
ろみ雲迎りしいと喜くして船出船まるる給出つる御終つ
都く山蓮中路のる来る雪ハ声援るの七来の経ひあり
米出乃為ると於縁ある御さしと経所る湖ある生え終り
御経出る為ら給ある此の孔式ハ宮ら云るすして前あす剣
御御へ三年二湖年経る又両代まり出子湖冊まち越えて
ゐ給到を給して為れぬ例の○馬承の宮して入出して

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

年[illegible]月の初[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十二月朔日[illegible]

[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

[illegible]

四目　天気　朝[illegible]　晴

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

五日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右

右[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

南も那く南部の船乃源
の[illegible]月[illegible]沖源の船
川[illegible]川[illegible]船[illegible]
源[illegible]南[illegible]黒乃船
[illegible]破[illegible]源[illegible]船
川[illegible]の[illegible]の
[illegible]源の言
[illegible]川[illegible]月源

[illegible]源[illegible]船船
[illegible]船[illegible]
[illegible]の言
[illegible]川[illegible]
[illegible]船源
[illegible]船[illegible]
[illegible]川乃[illegible]
[illegible]船

海を渡る時を明せり月
華嚴の菩薩能仁の説
給ふ時の如
月は二の十五の夜
月は春秋の空に
澄む中秋月の
月時々海を照らす春の
野に新の霜輝く秋月
月は冬の夜の
月の如く雲も時々
月は月の如く雲も
月は春秋の空に
月は一度の明月
月は明月の
月は月の
月は月の
月は月の
月は月の

5669

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右

[illegible]

[illegible]

右

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一生涯ニ一ツ有ル
[illegible]
[illegible]
[illegible]

薮坂乃部れも意乃所形ん
都乃川乃は　元
乃ゝ生乃和　薮
死を多く濃乃部面打拂い　元
乃下ゝ御を　御ゝ川乃を　薮
乃和等之和嘴　部和　、
ゝ川ゝ乃等ゝ　元
ゝ川ゝ乃等ゝ　項　元
賊ゝ和と和と　毋を屋ゝ　薮
ゝ川ゝ和ゝ乃　元
乃ゝ和ゝ乃の制禁の有よ

實ゝの川乃を意ゝ峰　薮
乃ゝ乃部和　元
部乃日部の仕絶乃事乃　元
事うゝ者ゝ蟠　芋を嘗よ　薮
部和ゝ乃命の川乃を地毛出　元
地獄乃川ゝ金乃毒の中　薮
川ゝ部ゝ川ゝ　元
脇ゝ川ゝ　薮

人乃御事を御[illegible]
[illegible]川清[illegible]祇[illegible]
[illegible]
[illegible]乃[illegible]
[illegible]
[illegible]